（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和３年度　学校自己評価システムシート（県立坂戸高等学校）

令和３年４月30日更新

W０９

目指す学校像	文武に秀で、地域に愛され、国際感覚豊かな人材を育てる学校

重点目標	
	１　確かな学力の向上と高い志を育む教科指導と進路指導の充実 ２　リーダー育成を図る特別活動と部活動の充実 ３　開かれた魅力ある学校づくりの推進

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（１月３０日　現在）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	（現状）感染防止策による自習室の利用制限や休校が続いたが、GoogleClassroom を十分に活用した指示・連絡が徹底されたことで、家庭での学習サイクルをある程度意識付けることができた。また、ICT 機器の効果的な活用と教員個々の授業改善につなげるため、教科内での授業研究や研究協議を強化する必要がある。 （課題） ①家庭学習の習慣化を基本とし、自学自習の姿勢を入学時から意識付けさせる必要がある。 ②教科会を中心とした教員の学び合いを授業改善につなげてく必要がある。大学入試改革、新学習指導要領への対応を踏まえた授業計画のカリキュラムマネジメントを推進する。	**①自学自習の意識付け** **②質の高い授業実践のための組織的な授業改善の取り組み**	①朝・放課後自習、隙間時間学習を奨励し、学校生活手帳を活用した時間管理を進める。 ②各教科内で授業アンケートを実施・共有し、研究協議に発展させることで授業改善を行う。 ②指導法や教材の共有化や全教科の定期考査の統一化により、評価の改善を進める。 ※県教委指定事業：「主体的・対話的で深い学びを実現する校内組織マネジメントの向上」 ※「教育課程研究事業（総合進学指導拠点校）」	①朝学習の参加数の把握により、月毎の平均推移に増加傾向が見られたか。 ①学習時間調査を実施し、各学年数以上の学習時間の確保がされているか。 ②教科内で学び合いが進み、情報が共有されたことで、教員個々の授業法に変化を生じたか。 ②授業改善に向け、授業公開を年３回以上、自主的な授業研究、さらに組織的な研修会及び研究協議を実施できたか。 ②全教科において定期考査の統一化により評価を改善し、併せて３観点別評価の在り方について協議できたか。				
	（現状）きめ細かな進路指導体制により、生徒の授業理解度・学校満足度が８割を超え、さらに保護者の進路への関心は高い。しかし、最後まで受験に向かう姿勢が育成しきれていない現状にある。 （課題） ①国公立大及び難関私大への進路実現等、首都圏大学定員厳格化への対応のため、最新情報に基づく適切な指導体制を充実させ、さらにきめ細かい指導を行う必要がある。 ②生徒自身が主体的に問題解決する能力の育成強化が必要である。	**難関大学への進学を目標とした組織的な進路指導の取組と持続した高い志の育成**	○各種模試の結果分析をもとに指導方法の工夫・改善を行うとともに、個に応じた進路指導を行う。また、部顧問とも連携を密にし、多方面から生徒の指導・支援を行う。 ○教員の進路指導力を向上させる取組を構築する。 ○令和４年度実施に向けた「（仮）坂高探究（総合的な探究の時間」を組織的・計画的に進める。	○共通テストの受験者割合 90%以上、進路目標校を「国公立大学及び難関私立大学」に設定し、国公立 20 人以上、中堅以上の私立大学 60 人以上の合格及び、希望進路の実現を目指させることができたか。 ○坂高総探プロジェクトチームを発足し、次年度に向け、組織的に進めることができたか。 ○「坂高生に身につけさせたい力」を主軸にした指導案の作成が構築できたか。				
2	（現状）真面目で落ち着いて学習や部活動に励む生徒が多いが、自ら探求し積極的に行動に移すといった行動力が乏しい。日頃から進路実現に向け、学習と部活動の両立を指導しているが、保護者との連携・協力は今後も必要である。 （課題） ①これまでの学校行事を見直し、新たな学校行事の運営方法と業務内容の精選を行う。 ②規律ある学校生活と高い協調性、適応力を育むために学校行事や部活動等の充実と教育相談の適切な対応を強化する	**①教育活動の様々な場面を活用した坂高生に「身につけさせたい力」の育成強化** **②生徒の自己管理能力の向上**	①教職員間で「坂高生に身につけさせたい力」を共有し、生徒・保護者へ情報発信していく。 ①全ての教育活動において「坂高生に身につけさせたい力」を意識した指導の徹底を行う ②部活動顧問の協力を得て、進路保証を含めた指導体制を構築する。 ②生徒手帳の活用を進めた自己管理力を育成し、教員間の情報共有を行いながら個に応じた的確な指導方法を検証していく。	①「坂高生に身につけさせたい力」が生徒・保護者に浸透しているか。 ①「意識的に自らの行動変容を起こした」と回答した生徒が 70%以上あったか。 ②「学校生活手帳等を活用し、自己管理と計画的な学校生活を送っている」と回答した生徒が 70%以上あったか。 ②教員の生徒指導力向上を行いつつ、担任と関係教員間の生徒情報と保護者と連携を進め、効果的な教育相談を行うことができたか。				
3	（現状）生徒募集を意識した情報発信を行ったが、学校行事が中止としたことで本来あるべき学校の教育活動が十分に情報発信できなかった。今年度入試では、本校の特色である外国語科で定員割れとなった。スマート連絡帳や Google classroom を連動させ連絡体制の徹底ができたが、保護者面談の機会を十分に確保ができず、アンケートでは満足度に生徒と差異が生じた。また、例年通りに教育活動が進まなかったからこそ、脆弱な組織体制が浮き彫りとなった。 （課題） ①中学生や保護者のニーズに合わせたＨＰを構築すると同時に、「外国語科」の魅力を積極的に情報発信し生徒募集につなげる。 ②教育活動の「見える化」を徹底し、地域や保護者への的確な情報発信を積極的に進める。	**①魅力ある教育活動の情報発信と組織力強化** **②保護者への適切な情報提供と連携強化**	①風通しの良い職場環境づくりと教職員全体で教育活動を支える機会を構築する。 ①ＨＰの情報（行事・学科・部活動等）を常に見直し、リアルタイムの情報発信を積極的に行う。 ①学校説明会の在り方と内容を見直し、ニーズに合った情報発信と現状に応じた情報提供を行う。 ②教育活動の「見える化」を促進し、さらに保護者と共に「進路を考える会」を運営していく。 ②地域連携や異校種交流を計画的に進め、学校理解につなげる。	①関係分掌等の密な打合せにより滞りなく教育活動が進んだか。 ①ＨＰにおける活動状況の更新が定期的に行われたか。 ①学校説明会を利用したアンケートを実施し、ニーズにあった情報発信（ＨＰ構成）ができたか。 ①新入生アンケートを実施し、生徒募集対策の戦略を講じることができたか。 ②保護者面談や「進路を考える会」等の機会を通して学校理解が深まり、保護者の満足度が昨年度より向上したか。 ②異校種交流の内容を精選することで本来の教育活動を充実させることができたか。 ②感染防止策を講じながら 50 周年記念式典を成功させることができたか。				

（別紙様式）　　（Ａ３判横）